Ｒ２中国高校駅伝競走大会の結果

11月22日（日）若干だが海からの風が吹き、気温は高くなく、曇りから後半には時おり霧雨が舞うコンディションの中、山口市きらら博記念公園付設駅伝コースで厳重なコロナ感染対策がなされる中で男子第62回、女子34回中国高校駅伝競走大会が行われた。(敬称略)

県高校駅伝を初優勝した男子チームは15位、県駅伝10連覇を達成した女子チームは8位に入賞した。各校のエース級がそろう女子１区では本校の松原のどかが区間優勝を果たした。また男子の佐野泰斗も区間3区でケニア人留学生相手に健闘した。

【男子の結果とレースの概要】

2時間12分31秒　第15位（34チーム参加）

区間順位　（　）は学年

第１区10km	10位	田原　匠真	(1)	30:38
第２区3km	14位	佐々木一哲	(1)	8:57
第３区8.1075km	3位	佐野　泰斗	(1)	24:50
第４区8.0875km	22位	福島　康太	(2)	26:34
第５区3km	24位	三上　純平	(2)	9:43
第６区5km	13位	加藤　蒼梧	(1)	15:56
第７区5km	16位	岩成　　陽	(1)	15:53

男子スタート直後（きらら博記念公園　10：30）

全国高校駅伝を控え疲労を残さないため、また今年は駅伝大会が開催されなかったので経験を積みチーム全体のレベル底上げのため、県駅伝で区間賞を獲得した１区志食、３区尾林、６区布野、７区直良を温存し、１年生、２年生のみの参加で大きくメンバーとオーダーを変更した。タイム、順位は想定通りでまずまずのレースだった。

１区はみずから志願の１年生田原。初の１区１０Ｋｍだったが強豪校のエース級に食らいつき、トップからわずか５６秒遅れの３０分３８秒で区間１０位。２区佐々木は県駅伝では５区を走り後続に差を詰められたのを思い出すが、今回は８分台で走り１０位をキープ。３区佐野は県駅伝でメンバー落ちの危機を乗り越え２区３Ｋｍを走った。多久和コーチは彼の長距離適性とスピードから３区に抜擢した。予想以上の走りで昨年全国準優勝の倉敷高校のケニア人留学生ガトトからわずか４２秒遅れの区間３位で順位を５位まで押し上げた。ここからは今年駅伝未経験の４区福島、５区三上、６区加藤、７区岩成で順位は徐々に落ちたものの、各自が今季のトラックのベストタイム以上の走りでつなぎ２時間１２分台、１５位でゴールした。まもなく全国の登録メンバー１０人が決まるが、佐野の好走もあり８キロ以上は３人枠を４人で争うことになりうれしい誤算だ。直前までオーダーは決まらないが、今までトラックではスパイクシューズでやってきて全国持ちタイム最下位のチームの下克上が始まろうとしている。

【女子の結果とレースの概要】

1時間13分43秒　第8位（30チーム参加）

区間順位　(　)は学年

第１区 6km	1位	松原のどか	(2)	20:01	（区間優勝）
第２区 4.0975km	5位	来間　美月	(2)	13:50	
第３区 3km	11位	青木　愛葉	(1)	10:54	
第４区 3km	20位	今岡　桃香	(2)	11:37	
第５区 5km	5位	角　桃子	(1)	17:21	

１区区間優勝の松原から２区来間へ（きらら 13:50ごろ）

「100点満点のレースだった。」とコーチ。女子は選手が８人しかいないので、県大会と同じオーダーでとはいかず受験生の３年生の２人を学校に残し、１、２年生６人で山口へやってきた。全国を決めた強豪校はエース級の選手の一部を使ってこないことが多いが本校はそもそも選手が少ない。１区は今岡宥梨香から松原へ、３区の角を５区へと長い距離に変更した。３区青木と４区今岡桃香は今年初の駅伝レースだった。

ある強豪校の監督がコーチに尋ねた。「１区の子は誰？」昨年も同じ言葉を聞いた。こちらにしてみれば本当にうれしい言葉だ。中学時代は全く無名の普通の選手だった１区松原は大きく伸びて、今や３年生エースの今岡宥梨香でさえレースでかなわない時もあると感じさせるほどだ。スタート直後から先頭集団についていき、前の選手を風よけに使いラスト１キロで抜け出すと２位に５秒の差をつけ中国大会区間優勝で来間につないだ。２区来間は先頭でやってきたこと、それよりも外国人留学生が複数出るこの区間にプレッシャーを感じてはいたが倉敷高校の留学生から５７秒差の区間５位、自身初の１３分５０秒台のまずまずの走りをした。前日のオーダーからここ３区からはどんどん抜かれ１０位台に後退する予想だったが、３区青木、４区今岡桃香がトラックの自己ベストを越える走りで踏ん張り７位をキープ、５区アンカーの角は同じく外国人留学生が複数いる区間で益田東の区間新を出した留学生には抜かれたものの区間５位のタイムで走りきり、総合８位でフィニッシュテープを切った。

帰りのバスの中は、故障者がでなければ全国入賞さえあった平成２５～２６年の女子チームがもっていた力に今年のチームにはあるという話になった。今年の県大会と中国大会からの様子から、本校の当時のチームが出した１時間１１分４３秒の県記録は年末の京都で更新されるのは間違いないと確信した。

R２　島根県高校駅伝結果（詳報）

悲願の男女アベック出場達成！

10月31日（土）快晴でわずかな東風だが局所的に強く吹くちょっとやっかいなコンディション、浜山公園内を周回し陸上競技場トラック内でコーンを回ってから中継するテクニカルなコースで男子第71回、女子第35回島根県高等学校駅伝競走大会が行われた。

今年はコロナ感染症の影響で記録会、大会がほぼ開催されず、参加選手の中には公認の記録がない選手もいた。大会が開催されたこと自体が奇跡で関係者に感謝したい。

女子チームはライバル校に一度も先頭を許すことなく10年連続12回目の優勝を果たした。

3年前、４区途中まで常勝校に2分リードしたもののあと一歩で2位に終わった本校男子チームは1、2年生中心の若いチームながら序盤から接戦を演じ、3区からリードを広げ見事に初の優勝。念願のアベック優勝を実現した。

いずれも11月22日（日）に山口県きらら博記念公園で行われる中国高校駅伝競走大会に出場する。そして12月20日（日）に、たけびしスタジアム京都（西京極陸上競技場）で行われる冬のインターハイ、男子71回、女子第32回全国高校駅伝競走大会にアベックで出場する。（敬称略）

写真提供（アタゴ写真館）

平高女子見事逃げ切り１０連覇

〇女子（今岡宥莉香、来間、福間、角、松原）のレースの様子と結果

昨年は4区福間が大会前に故障したもののどうにか間に合い予定通りのオーダーで大会にのぞみ、ライバル校のアンカーの外国人留学生に繋がる前に２分差をつけて逃げ切る想定をしていた。そして４区終了地点で２分１０秒の差をつけて、アンカー勝負を逃げ切って５８秒差での優勝だった。今年はコロナ感染症でライバル校の外国人留学生は新型コロナ感染症対策のため日本への入国が秋になり、昨年までなら日本の蒸し暑い時期を母国で過ごし予想を上回る力をつけていた。１０月に行われた雲南ナイター記録会3000mでは今季高校生ランキング１位となる８分５４秒台の記録をたたき出したのである。今大会での予想タイムは5キロ区間なら最速で15分20秒だった。大会前の浜山コースでのトライアルで松原のタイムから逆算すると4区終了地点で最低でも2分、できれば2分30秒くらい前に位置し、先頭が見えない形のレースのプランを想定した。後はそれぞれが他の４人のためにどうやってタイムを削るかである。

「ゆり、今日はおまえが悪かったかや、それとも、相手が良かったかや、どっちだや？」「両方です。」

１区は昨年区間新記録を出したものの、受験も控え秋以降調子がなかなか上がってこない３年生エースの今岡宥莉香。２年ぶりの双子対決だが妹は今年になって調子は上げてきていた。今年の記録からは最低４５秒できれば１分位差をつけたいところだったがタイム差は２５秒だった。レースの流れは作れたが「全国での好走を期待したい。」そして今回はライバル校に在籍する妹の頑張りを多久和コーチはたたえた。

「潜在能力はチームでも桁違い、眠れる獅子」とコーチが称す来間美月が昨年に続き２区。相手選手とはこの区間だけで１分くらい差をつけたいところだった。想定通りの素晴らしい走りで、コースは異なるものの昨年の自身の２区区間賞のタイムを３１秒縮め、その差を１分２２秒に広げた。

３区は休校開け以降に好調が続く福間涼子。記録会が少なかったため持ちタイムは１０分１０秒台だが、練習の様子からは余裕で１０分を切る力はある。ライバル校は予想外の昨年エース区間の１区を走った選手、故障明けと聞いていたので１０分４５秒ぐらいと予想した。福間は力通りの走りをしたが、ライバル校の選手は失速し３区終了地点で２分１１秒に開いた。

４区は１年生の角桃子。春先の故障から走り切れていなかったが、雲南ナイター記録会で自己ベストを更新し、ここに来て調子をあげてきた期待の１年生。相手校の４区は昨年１区の選手だとの予想ははずれたが、相手と同じタイムで走ることができればと考えていた。角は速いピッチで３キロを走りきりトラックの自己ベストよりも１０秒早く中継所に飛び込んできた。４区でさらに２７秒も差を広げ、トータルで２分３８秒差となった。「４区でワンプラス（３人でリードする予定が４人で離せた）が生きた。」とコーチは語る。

５区アンカーは努力家でガッツのある松原のどか、雲南ナイター記録会での記録は目標１６分４０秒に３０秒届かなかった。しかし２週間前のコーストライアルでも１７分前半で走っていたので、相手が１５分を切らない限りは逆転できないセーフティーリードを４区までの４人が作ってくれた。「安心感をもって走ることができました。」相手は１５分４９秒と従来の区間記録を１分以上更新したが、最終的には一度もリードを許すことなかった。全コースで８回コーンを折り返すタイムロスはあったがほぼ予定通りのタイムで１分７秒差をつけての完全勝利だった。全国では本校の最高記録１時間１１分４３秒を上回り最低でも県ナンバー３２を超える順位をねらいたい。

総合ベスト3

優勝	平　田	1:13.16
２位	益田東	1:14:23
３位	石見智翠館	1:28.52

区間優勝者（　）は学年

第１区6km	今岡宥莉香(3)	21:06
第２区4.0975km	来間　美月(2)	14:05
第３区3km	福間　涼子(3)	10:26
第４区3km	角　桃子(1)	10:19
第５区5km	(益田東)	15:49
2位	松原のどか(2)	17:20

平高男子接戦を制し悲願の初優勝！

〇男子（志食、佐野、尾林、田原、佐々木、布野、直良）のレースの様子と結果

世間は当然のことながら、常勝軍団のライバル校の優勝を確信していた。しかし大会前日のライバル校のオーダーを見て勝てると感じた。本校は例年目標としている９月の雲南ナイター記録会で男女全員走る直前に雷雨のためにレースが打ち切りとなり、歯車が狂ったのは間違いなかった。本校男子メンバーは３年生１人、１、２年生がそれぞれ５名の１１人の若いチームだが、例年よりチーム内での競争が強くなり、それがプラスに影響した。何よりも仲良く、練習が楽しくてたまらない選手たちだ。平均タイムでは若干劣るが、今年は１区、３区、４区の３本柱が着実に力をつけてきたこともあり、勝負できるめどが立った。鍵を握るのは１区の志食隆希と７区アンカーで後輩から慕われる３年生の直良聖也だ。

１区の志食は記録会参加の機会が少なかっただけで、１４分台の力はある。何よりも１０キロを安定して走ることができる粘り強さとガッツがある。格上のライバル校の１区選手はおそらく１分差をつけてこいとの指示があるだろう。後ろにピタッとついて相手にプレッシャーをかけて最後まで食らいつき、３０分台で走り、２０秒遅れでつなげても３区、４区で逆転できると予想していたが、ラスト１キロでスパートし島根No.1の選手に４秒差をつけて区間賞を獲得した。

２区は１年生の佐野泰斗。中学時代はサッカー部だったが顧問の先生から陸上を勧められて本校に進学した。スピードはピカイチで新人戦のマイルリレーを走ったほどだ。しかし足に痛みがあったのは確かだが２週前トライアルで3～5キロ区間予定の選手のレースで凡走しオーダー落ちの可能性もあった。大会直前に３キロ区間以外の５人のメンバーが固まった時点で選手たちの話し合いから佐野の起用が決定した。佐野は県内の強豪選手とし烈な争いを演じ、区間賞の記録からわずか５秒遅れ、ライバル校とのリードをわずかに守り、エースの尾林にたすきをつないだ。

３区は長距離エースの２年尾林恒星。秋の新人戦で3000m障害で大会記録を更新し、現在日本高校生ランキング12位である。ほぼ同じ位置でたすきを受け取った尾林は途中、風よけに使われながらも安定した走りでスパートし10秒の差をつけてライバル校に焦りを生ませた。この時点でほぼ優勝が見えてきた。

４区は１年生エース田原匠真。昨年の中学総体3000m優勝者で都道府県駅伝中学生代表。今年も新人戦１年5000mの優勝者。現在は本校柔道部員で世界５位の選手と同じ下宿で暮らし、勝つための様々を学んでいる。普段はお茶目な彼だがレースでは変わる。尾林のリードをさらに広げようと力走し、区間２位とは６１秒トータルでライバル校に１分１１秒に広げた。

同じく昨年の都道府県駅伝の代表の５区佐々木一哲も１年生ながら高校総体代替大会3000m障害２位入賞者である。粘り強さが自慢の佐々木も４区までで作ったリードを着実に守りきり11秒差の区間２位のタイムでライバル校とちょうど１分差で６区布野へつないだ。

６区は２年のムードメーカーにして、常に考えて行動ができ練習も一番頑張っている布野雅也。強豪校を倒そうと練習にはげむチームでキャプテンとして５キロ区間を走ることができるなんて当時は想像できなかった。約１年半前にさかのぼる。県高校総体３日目3000m障害決勝、第2曲走路水濠で転倒者がいた。それ自体はたまに起こることだが、その選手が医務室に運ばれてよく見ると布野だった。病院へ運ばれ診断は左足前十字靭帯損傷だった。即手術、疲労骨折でさえ半年以上かかる選手もいる。選手生活への復帰は通常そう簡単ではない。しかし懸命のリハビリと根性で復帰した。昨年11月の県駅伝で5区ランナーとしての復活である。

ここ6区からは逃げ切りを図りたいところ、布野は冷静にラップを刻み逆に焦って入ったライバル校の選手に６秒の差をつけ、区間賞獲得、７区アンカーの直良につないだ。

７区アンカーは後輩に「なおらっち」と慕われる、唯一の３年生で受験も控える直良聖也。相手は１４分台の記録をもつ選手だが、すでにセーフティーリードの１分６秒差だった。後輩６人で作った貯金をだめにするわけにはいかない直良はタスキ渡し直前に後輩から声をかけられて緊張がとけたのかリラックスして入った。そして逆転をかけて突っ込んだライバル校の選手に２５秒のリードを奪い区間賞、結果１分３１秒差で完勝、県駅伝で男子初優勝、全国男女アベック初出場のゴールテープを切った。

コース内のコーンを合計１８回折り返しての本校新記録2:12.12だった。想定より２分弱遅かったが、全国では８分台を目標に頑張りたい。

総合ベスト3

優勝	平 田	2:12.12
２位	出雲工業	2:13.43
３位	明 誠	2:18.29

区間優勝者

第１区10km	志食　隆希(2)	30:51		
第２区3km	(石見智翠館)	9:01	3位	佐野　泰斗(1)　9:06
第３区8.1075km	尾林　恒星(2)	25:41		
第４区8.0875km	田原　匠真(1)	25:22		
第５区3km	(出雲工)	9:19	2位	佐々木一哲(1)　9:30
第６区5km	布野　雅也	15:46		
第７区5km	直良　聖也	15:56		

保護者、地域、卒業生の皆様へ

たくさんの皆様に応援いただきありがとうございました。３年前に常勝校をあと一歩まで追い詰めた男子選手たちがついに悲願を達成し、アベック出場がかないました。若いチームで日々力がついてきたと実感します。12月20日に京都の西京極陸上競技場で行われます全国大会にご期待下さい。女子選手は10年連続で出場となり、開会式が行われれば学校長が全国表彰を受けます。ここ５年間では一番強いチームになったと周りからも言われます。今年こそビブス（ゼッケン）ナンバー32を上回る順位を目指してしっかり調整して参ります。皆様には今までと変わらぬご声援、ご助力をお願いいたします。本当にありがとうございました。

スタッフ一同

明日も笑顔で頑張ろう！！